



《ルリストーン（ペルシア）注口吊手付壺》BC900年頃 M2424



《エジプト シャブティ》エジプト・第3中間期 M2435

目 次

カラー口絵

考古資料調査報告より	……………	1
------------	-------	---

考古資料調査報告

目録

木村定三コレクション日本考古目録		
吉田 広・原田 幹・原田 昌浩・大西 遼……………		11
木村定三コレクション中東考古目録		
中野 智章……………		23
木村定三コレクション中南米考古目録		
杓谷 茂樹……………		29
木村定三コレクション中国・朝鮮考古目録		
山本 堯・大西 遼……………		39

論文

木村定三コレクションの中国古玉		
山本 堯……………		53

木村定三コレクション銅釧・環鈴・鈴について

目録

木村定三コレクション銅釧・環鈴・鈴目録		
金 宇大……………		73

木村定三コレクションについて

木村美保子夫人の思い出——愛知県美術館を去るにあたり——		
古田 浩俊……………		81
木村定三の文体		
石崎 尚……………		87
木村定三著作集補遺		
(編)石崎 尚…		001(95)

木村定三コレクション中東考古目録

凡例

- ・本目録は、愛知県美術館に寄贈された木村定三コレクションのうち、中東考古の資料を掲載し、解説を付したものである。
- ・各資料名は調査者の見解を勘案して決定した。
- ・各資料のデータは、掲載番号、資料名称、年代、寸法 (cm)、重量、産地、コレクション番号、受入時名称の順に記した。
- ・作品解説は、中野智章 (中部大学教授) が執筆した。

1. アゼルバイジャン馬形瓶（土器）

BC1000年頃
18.9×3.3×8.8
208g
M2422（アゼルバイジャン騎馬人物瓶（土器））

イランからアゼルバイジャンなどカスピ海沿岸地域に特徴的な黒色の土器。表面に円形や三角形の刺突文がところどころ配される。馬の背中に把手が付いた長頸の瓶を載せるが、臀部に壺を載せるタイプも存在する。



2. 皿型注口把手壺（土器）

BC1000年頃
15.0×12.4×21.6
637g
M2423（皿型注口把手壺（土器））

イランからアゼルバイジャンなどカスピ海沿岸地域に特徴的な赤褐色の土器。皿形の注口を有し、双把手の両端上部にはそれぞれ1体ずつの動物が着く。表面には帯状の彩文やへら削りの痕などが見える。



3. ルリスターン（ペルシア）注口吊手付壺

BC900年頃

45.7×21.6×27.0 径21.6

2075g

彩文土器

M2424（ルリスターン（ペルシア）注口吊手付壺）

出土した遺跡の名前を取っていわゆる「ババ・ジャンIII式彩文土器（Baba Jan III Painted Ware）」と呼ばれる、イラン西部ルリスターン地域の鉄器時代に典型的な土器。クリーム地の器肌に赤褐色で波状文や三角文、十字などを描く。注口を有するほか、口縁部に連なる吊手（全体が1体の動物を表している）は燃った2本の粘土紐で作られる。三角文の変遷から、本例はババ・ジャンIII式初期の紀元前900年頃の作と推定される。この種の土器のうち、甕型の注口を有する器種については、原イラン多神教におけるハオマ祭儀との関連性が足立拓朗によって指摘されている。



4. 動物型石偶

紀元前2000-1500年頃？

13.0×6.3×17.4

1840g

シリア、伝ラス・シャムラ（ウガリット）出土

M2425（動物型石器）

牛状の動物をかたどった石偶で同心円状の目、大きな耳、口を持つ。頭部から肩部にかけては菱形や格子状の刻線、臀部には記号状の装飾が施される。背中や尻尾などには凹凸をつけるほか、足先もやや斜めに削り出すなど描写が細かい。



5. 切子硝子 魚形杯

イラン 9世紀

8.0×14.3×2.7

102g

ガラス

M2426 (切子硝子 魚形杯)

イスラームガラスに特徴的な線カットで表面に菱形文様を施した魚型容器。目や鱗の部分には青緑色の装飾がつく。内側は碗状に窪んでいる。



6. エジプト シャブティ

エジプト・第3中間期

5.0×1.5×1.1、4.8×1.8×1.5、5.4×1.8×1.2、7.2×2.2×1.5、6.4×1.9×1.4

6g、6g、9g、12g、10g

テラコッタに青色のウォッシュ

M2435 (エジプト ラシャブチ)

シャブティとは、死者の代わりに来世で労働に従事したり、召使いとして働いたりするために墓に副葬された小像を言うが、本例は大量生産品の粗雑な作りでおそらく後者と見られる。もともとは1日1体で365体、それに10体ごとに付けられた監督官(片方の肘を曲げて胸にあてた姿を呈する)36体を加え、計401体で1セットを構成していた。テラコッタ製で表面に青色のウォッシュを施しているが、剥落が激しく、手に持っていたであろう楯や鞭などの確認は困難である。頭には三分割されたカツラを被り、平坦な背面を有する。



7. サーサーン朝封泥

イラン・サーサーン朝 4世紀-7世紀

全長5.2 印面径2.4、全長6.8 印面径1.2、全長5.8 印面径2.4、全長4.5 印面径2.0、全長5.9 印面径1.8
23g、77g、60g、32g、78g

M2493 (封泥 5個)

古代の西アジアでは、交易で運搬する物品を納めた容器に泥で蓋をし、その表面に関係者の名前や物品等を記す印を押した。受け取った者は封泥を壊さないことには中身を取り出すことができず、改変等を防ぐために有益であった。本例はイラン高原などに展開したサーサーン朝のもので、大きさの異なる印がそれぞれ押されるほか、紐で縛った痕も見られる。印内には円状の文様や鳥などの図像、パフラヴィー（中期ペルシア）文字の銘文が部分的に認められるが、摩耗が激しい。



8. ペルシア青釉象形置物

イラン・セルジューク朝 12-13世紀

11.6×4.9×9.3

179g

M2907 (ペルシャ青釉象形置物)

セルジューク朝のイランに特徴的な青釉掛けの置物で、耳当てを付けた象を表現し、乗り手のほかに輿に乗った人物が1名表現されている。同種の作品には象が乗る台座を持つものもあるが、本例には付されていない。



愛知県美術館研究紀要 第31号 木村定三コレクション編

2025年3月発行

編集・発行 愛知芸術文化センター 愛知県美術館

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2

Tel: 052-971-5511 (代)

<https://www-art.aac.pref.aichi.jp/>

The logo for AOMOA (Aichi Prefectural Museum of Art) features the lowercase letters 'aomoa' in a stylized, rounded font. Below the letters, the full name 'aichi prefectural museum of art' is written in a smaller, sans-serif font.

制作 共生印刷株式会社

Bulletin of the Aichi Prefectural Museum of Art No.31

Part2 Studies of The Kimura Teizo collection

2025

Edited and Published : Aichi Prefectural Museum of Art

1-13-2 Higashisakura, Higashi-ku, Nagoya 461-8525 Japan

Tel: +81-52-971-5511

Printed : Kyosei Printing Co., Ltd.